

河野 通博 著：

『光と影の庶民史—瀬戸内に生きた人びと』

古今書院 1991年 5月

四六判 255ページ 2,000円

著者は、永年勤められた関西大学を、1991年3月に退職された。本書は、この退職を契機として出版されたものである。

評者の本書に対する評価は後述することとして、早速本書の内容を紹介しよう。

まず「はじめに」では、本書の基本的な視角が、「価値観を異にする人間と人間との間の争い」（1頁）を通して「この地域の過去・現在・未来を通観してみたい」（2頁）として、簡潔かつ明瞭に提示されている。

続いて第1章の「瀬戸内とは——舞台についての考察」は、セトの語源について考察するとともに、瀬戸内海の地域の範囲を、行政区画や言語文化圏を考慮して規定している。さらに、その瀬戸内地域の気候・海洋・海岸地形などを中心に、自然環境の特性を明らかにしている。また、瀬戸内地域における特徴的な人間の経済活動である塩田や禿山、漁場などとの関連からの自然環境に関する記述は、読者にとって第2章以降の経済活動の変遷における「光」と「影」とが浮き彫りにされる舞台がどのようなものであるのかを、よりわかりやすいものになっている。

第2章の「人の住みつき」では、瀬戸内地域における人びとの定住の拡大過程が、旧石器時代から現代までわたるにもかかわらず、簡潔かつ明瞭に叙述されている。しかも、塩田・放牧・鉄穴流し・干拓・工業など瀬戸内地域に特徴的な産業であり、各時代において重要であった産業と関連して記述されていることは、定住の拡大要因を明確にしている。

第3章の「島の農業」においては、愛媛県越智郡の大島の事例を中心に、島における農業の様相を、自給的農業や商品作物農業の側面から明らかにしている。

第4章から第6章では、監督たる著者はスポットライトを海面に転じ、海との関わりにおける人々の生活の明暗を浮き彫りにしている。まさに、この監督ならではの独壇場の章が続く。まず「漁場を拓く」では、瀬戸内海を舞台とした人びとの生活が、地名や信仰からみた海女（海士）漁村の発生、海上輸送と漁業権の保証、商品作物栽培の発展に伴う半農半漁村の成立などから述べられている。

第5章の「漁場争い」においては、近世から現代に至る漁場紛争について、塩飽諸島を事例に藩相互の係争、漁場区画の基本政策、水産行政の対立などといった渦の中で揺れ動く漁民生活の変容を知ることができる。そして、彼らの生活の舞台が瀬戸内海のみならず朝鮮半島にまで拡大した要因の一端がわかる。

続く第6章「海上の道」は、生産の場としてではない、交通路としての瀬戸内海をとらえ、輸送技術の変革、輸送物資の変化による人びとの生活の変動を明らかにしている。

最後の第7章の「戦後瀬戸内臨海地域の変貌」では、第二次世界大戦後における農産物の増産政策・漁業制度の改革・工業の構造変化に伴う瀬戸内海の臨海地域における変貌を、環境問題のレンズを通して映写している。

なお、「古代・中世の漁民なり、漁村については歴史考古学の助けを借りながら、今後明らかにすべき課題」（124頁）や、塩飽・小豆島の廻船の衰退要因に関して「正確に理由づける資料は残念ながら持ち合わせていない」（124頁）など、今後の地理学における重要な研究テーマが示唆されている個所がみられ、後学の我々にとっての助けとなっている。

さて、系統地理学と地誌学との関係は、不明瞭であり議論の多いところであろう。しかも、近年における地理学の研究対象の細分化や研究方法の多様化によって、地誌学の研究成果の蓄積が少ないことは確かである。漁場用益を中心テーマとして漁村・水産地理学の研究を推進されてきた著者は、中国大陸を対象とした地誌学者でもある。まさに著者は、系統地理学と地誌学とに造詣が深い地理学者の一人である。本書は、ある人間集団の「光」が、他の人間集団にとっての「影」となることを踏まえつつ、時代の変遷の中での移行を、瀬戸内地域を対象とした地誌として完成したものである。海と人間との関係から瀬戸内地域をとらえた、いわゆる動態地誌学の成果であり、その変遷を踏まえた、いわば歴史地誌学の研究成果ともいえる。

小泉武栄（1992）は、地理学の普及・発展のため、「よい普及書を執筆しよう」と提言している。普及書といえば著者に失礼になるかもしれないが、本書が地誌学の普及・発展のための啓蒙書であることは確かである。本書が捧げられた「瀬戸内に生きる仲間たち」（248頁）のみならず、地誌学を志向する地

理学者はもちろんのこと、常日頃から生活における「光」と「影」とに目を向けている教育や行政に携わる人びとにも読んでいただきたいものである。

〔文献〕 小泉武栄（1992）：自然地理学者から人文地理学者へ，東京学芸大学紀要（第3部門 社会科学），43，103～115頁

（古田 悦造）